

# 構内アナウンス

「新幹線をご利用くださいまして、ありがとうございます！」

はっと、立ち止まって周囲を伺った。その構内アナウンスは今まで聞いたことのないほどの爽快なトーンだった。昨年冬の岡山駅の新幹線プラットフォームでのことである。

当時私は前職場と兵庫の西宮にある自宅とを毎日新幹線で通っていた。新幹線の定期券では自由席しか座れない。のぞみの自由席は1~3号車であり、乗り降りの場所はホームの一番端っこになる。岡山駅では階段からホームにあがってからが…とても遠い。その遠くに自由席に乗る人たちがずらっと並んでいるのを見て、うわあ、座れるかなあ…といつもひるんで思考停止してしまう。

そこに割り込んできた構内アナウンスである。「まもなく24番線に、のぞみ52号、東京行きが入ります！」



その声はとても生き生きとていて、まるでボクシングのリングアナウンサーばりのよく通る声で、これからとんでもない乗り物が入ってくるぞ、こいつが可愛くてしょうがないというような紹介であった。

「グリーン車は、8号車、9号車、10号車、自由席は1号車から3号車です！」

へえ、そんな乗り物に乗れるんだ、早く来ないかなあ！

セリフはいつもの構内アナウンスと一言一句全く変わりが無い。しかし、その声を聞くと、帰りの途中で早く座って体を休めたいという気持ちが、これから旅行にでも行くかのようなワクワクとした気持ちに一気に変わったのである。

一体こんな美声を発している駅員さんはどんな人なんだと、私は新幹線を一本遅らせることにして、ホーム中央まで逆戻りした。その駅員さんは私が予想していたような爽やか好青年という風ではなかったが、この仕事がとても好きなんです、といった感じでとても楽しそうに仕事をされていた。納得。

毎日の病棟回診や外来で、患者さんと話をする時、気づけばいつも決まったフレーズで喋っている。



倉敷ニューロモデュレーションセンター長

脳神経外科

あがり たかし

上利 崇 先生

「調子はどうですか？」

「今日はどうしましたか？」

そこに気持ちを込めることによって、患者さんが受け取る印象は大きく変わることだろう。また、その患者さんの返事や笑顔の反応によって、自分も逆に喜びや元気をもらうことができる。

『今日あなたと出会えたことは大変嬉しいです。』

その後もたびたび、この美声アナウンスに巡り合うことができている。駅員さんの声に元気をもらい、意気揚々と帰宅している。

上利先生は倉敷ニューロモデュレーションセンターで毎週火曜・金曜午後の脳神経外科を担当されています。専門分野は機能脳神経外科（パーキンソン病、本態性振戦、ジストニア、疼痛など）。

Doctor's Eyes